

リレー随筆

中山万莉ノート

鹿児島生協病院 研修医 中山 万莉

「探偵が謎解きをする場合、つぎのことばで始めなければならない」

「さてー」

初めまして、今月のリレー随筆を書かせていただきましたことになりました。鹿児島生協病院研修医二年目の中山万莉と申します。

同じく鹿生協で研修中の中間先生からご紹介いただき、今回この随筆リレーに参加することになりました。今回この随筆を書くにあたって2年分の原稿をいただいて読んだのですが、多種多様なテーマで書かれており、何を書いたらいいかさっぱりわからなくなってしましました。

特にテーマ指定もなく、6,000文字以内であれば好きに書いていいということだったので、せっかくなら、私の好きなことや語りたいことを、書いていきたいと思います。

前置きが長くなりましたが、冒頭のセリフを読んで、ピンとくる方はいらっしゃるのでしょうか？上記は、はやみねかある先生の夢水清志郎ノートに出てくるセリフです。

私はこのシリーズの本が大好きで、何度も読みました。この小説のキャラクターに、教授と呼ばれる人物があり、冒頭のセリフは教授がよく使う謎解きの決まり文句でもあります。私はこの教授が大好きで、謎解きのシンはむさぼるように読み、よく寝落ちしていました。

なぜ唐突に教授のセリフを紹介したかというと、小さいころ、私はこんな大人になりたかったなあ、というのをふいに思い出したからです。

物語は、主人公が住む家の隣に、教授が引っ越してくる所から始まり、会って間もなく教授は主人公の秘密を解いてしまいます。そこから主人公と教授の物語は進んでいくのですが、シリーズのところどころに出てくる教授の素敵なセリフに胸を擊たれ、とても感動していました。

「ぼくは名探偵です。犯人をつかまえるだけの無能な警察とはちがいます。きっと、みんなが一番幸せになれるように、事件を解決しますよ。」

私が好きなセリフです。一応主張させていただきますが、教授と違って私は警察のことを無能だなんて思っていませんし、検死にも喜んで協力させていただきます。さて、教授の謎解きは必ずしも真実をつまびらかに語ることはありません。嘘をついたり、わざとすべてを語らなかったりします。トリックを解くだけではなく、事件を解決するのが名探偵だと、教授は語ります。私はあいにく名探偵ではありませんが、医師である以上、名医を目指したいと思います。病気を治すのは医者の仕事ではありますが、名医を夢見る以上、みんなが一番幸せになれるように、病気に付き合っていきたいなと切に思います。

「いつの時代だって子供は幸せなんだ。幸せでなくちゃいけないんだ」

[隨筆・その他]

このセリフも大好きなセリフのひとつです。このセリフは主人公の「昔の子供と今の子供、どっちが幸せだと思う？」という質問に対し教授がかえした答えです。本当にその通りで、そうなるようにがんばらなきゃな、なんて、中学生ぐらいの自分は一丁前におもったのを記憶しています。世の中には悲しい事件があふれています。患者さんを診ている限り、人の困りごとにたくさん直面します、その困っているのが子供であったならば、それはとても悲しいことだと私は思います。可能ならば一人でも、完全には幸せにできなくても、その手伝いだけでもできるならば、それはとてもうれしいことだと私は思います。

私が教授に惹かれるのは、格好良くて、優しくて、親しみやすくて、尊敬できる大人だからだと思います。私もそんな大人になりたいなあ、とても思います。

さて、隨筆はまだまだ折り返しにもなっておらず、先は長いですが、少し私のことを語らせていただこうかなと思います。私は福岡県北九州市で誕生し、小中高と公立の学校に通い続け、大学は佐賀大学の医学部に入りました。鹿児島とは縁もゆかりもないわけですが、今鹿生協で研修医として働いております。

外部研修の時には、よくなんで鹿児島生協病院を選んだの？ときかれます。ながながした話になるのでいつもは、新幹線が通っていて、酒が安いからですね。と適当な返事をしていますが、たまには本当の長々とした話をしてみようかなと思います。

私が研修病院を探し始めたのは大学4年生の夏ごろでした。2年生で留年した私は、日本奨学金支援機構の奨学金がもらえなくなっていた為、週に6日くらいバイトに入って、生活費や娯楽費をせっせと稼いでいました。5年生になると、実習が始まり、シフトを組

みづらくなることや、そろそろ国試の勉強を始めないといけないということもあり、バイトをやめようと思っていたのです。バイトをやめる=稼ぎがなくなる。ということで、浅ましくも生活水準をおとしたくなかった私は奨学金を貸してくれる病院の中から初期研修先を選んで、奨学金を借りつつ余裕のある学生生活をおくり、初期研修をすることで義務年限を果たそう！と考えたわけです。範囲は広く、九州か中国地方で、奨学金が借りられるところ、新幹線が近くでそこそこの都会という条件で病院を探して片っ端から、説明会を聞きに行ったり、病院見学に行ったりしました。

その説明会を聞いたときに聞いた、セリフが忘れられずに私は迷わず、鹿児島生協病院での研修を決めることになるのですが。

「初期研修で一番大切なことは、心身ともに健康を保ちつつ、研修を修了することが何よりも大事。」

どうですか？胸打たれました？これは鹿児島生協病院の小児科の先生のお言葉なのですが、その時の私は漫画でよくあるところのピッシャーネンと雷に打たれたような衝撃を受け、なんていいい先生なんだ！病院の雰囲気よかつたらここに行こう。と虜にされてしましました。そんなこんなでさっさと研修病院を決めた私は、佐賀大学で5、6年の実習を、怒られ、怒鳴られ、何とか終了させ、泣きながら卒試に何とか合格し、国試も何とか合格し、見事に医師免許をゲットし、鹿児島生協病院での研修をスタートさせました。

生まれて初めて鹿児島で生活をするにあたって、わからないことだらけで、ゴミ出しのルールから、火山灰の傾向と対策まで、いろんな人にきき、除湿器も買いました。今住んでい

る家にはなぜかエアコンがなく、夏は毎年死にそうになっているので、今年は冬のボーナスでエアコンを買うと心に決めてあります。

さて、世はコロナ時代、鹿児島生協病院は鹿児島で唯一感染症の研修ができる民間病院ですので、感染症の先生がコロナについてたくさんレクチャーをしてくださり、感染対策について入職の時からみっちりみっちり教え込まれました。せっかく鹿児島に来たのに、外で酒が飲めないなんて、とんでもない時代に鹿児島に来てしまったなあ。と悲しみに暮れる日々が続いております。鹿児島でもう1年間も働いたのに、病院職員以外の知り合いは、よくテイクアウトを買いに行く家の向かいの居酒屋のマスターと、その5軒くらい隣の麻婆拉麺の店長さんくらいです。学生の時は、知り合いが医療従事者だけなんて絶対に嫌や。趣味で習い事とか始めて友達を作るのじゃ。なんて思っていたのになんて有様なのでしょう。そのあと外部研修でも結局病院職員としかおしゃべりしないので、医療従事者の友達が増えていくばかりです。学生時代の予定では、シャレオツなバーとかの常連になって、でかい氷カランカランいわせながらいろんな人と仲良くなる素敵なレディになる予定だったのに・・・。

だらだらと書きすすめておりましたが、だいぶ良い分量になってきましたね。今原稿をかいているのは9月2日23時42分。締め切りまでまだまだ時間の余裕がありますので、とても優秀な執筆スケジュールです。現在は救急研修で福岡県の大手町病院に来ていますが、世の中はコロナ第5波真っ只中。鹿児島では一応第4波ということになるんでしょうか？救急外来にはコロナ陽性患者がぽつぽつと来院し、時には重症が診れるところに転院した

りと、すぐそこまでコロナが迫ってきている感じがびんびんと伝わってきてます。

もはやN95マスクと、フェイスシールドは手放せない装備になり、自分の身を守るために、しっかりと感染対策を遵守するよう心がけています。テレビでは毎日のように感染者数が放送され、いろんな人がいろいろなことを語りながら、大変な時代に医師になってしまい、日々自分の不勉強さに落ちこみ、たくさんの方々に支えてもらって何とか働いているなあと、実感する日々です。

こんな時代に生まれたからこそ、いろいろなものに目を向けて、みんなが一番幸せになれるような医師になりたいなあと思います。

つたない文章をさんざん書き散らしましたが、このあたりで筆をおきたいとおもいます。ここまで私の文章に付き合っていただいて本当にありがとうございます。このバトンは、地域研修でお世話になった奄美中央病院の平元先生に託したいと思います。平元先生は奄美病院内の新聞の作成も行っており、文才は折り紙付きですので、私も今から平元先生がどのような文章を書いてくださるのか楽しみです。それでは、またいつか会うそのときまで。

Something New!

次号は、奄美中央病院 平元良英先生のご執筆です。
(編集委員会)